

『堀川団地再生への提言』



平成21年9月

京都府住宅供給公社

堀川団地まちづくり懇話会

目 次

はじめに	1
堀川団地再生への提言	
堀川団地の役割	3
堀川団地再生の基本的視点	4
まちづくりと団地再生の基本方向についての提案.....	4
事業の進め方、仕組み、プログラムについての提案...	6
参考1 堀川団地まちづくり懇話会の概要	9
参考2 堀川団地の概要	11
参考3 堀川団地まちづくり懇話会議論の概要.....	12
参考4 関連アンケート 結果概要	18

はじめに

堀川団地は、第二次世界大戦中に防空帯を作る目的で建物疎開を強いられた後の生活再建を担うという、重要な役割を持って誕生しました。京都府と京都府住宅協会（現京都府住宅供給公社）によって整備された堀川団地は、鉄筋コンクリート造 3 階建て、水洗便所、ガス、大きなベランダが完備した住宅団地で、当時としては先端をいくものでした。戦争前の堀川京極商店街の復活をめざして、通りに面した 1 階には店舗が設けられましたが、これも注目を浴び、完成後、市街地復興のモデルとして全国から見学者が相次いだといわれています。

以来、堀川団地は、京都市の都心上京の中で、勤労者のための貴重な公的住宅として、また、周辺住民の生活を支える貴重な商店街として、大きな役割を果たしてきました。しかし、建設後 60 年が経ち建物の老朽化が目立つようになり、2003 年に京都府住宅供給公社により実施された耐震調査では、耐震改修などの対策をとらないまま阪神・淡路大神戸震災クラスの大地震が京都で起こった場合、倒壊する危険があるとの判定が出され、「団地再生のための対策」が必要なことが明確になりました。

堀川団地まちづくり懇話会は、「堀川団地再生のための対策」のあり方を検討するために、平成 21 年 4 月 30 日に設けられました。半年という短い期間でしたが、まちづくりとして堀川団地の再生を進めていくという視点のもと、懇話会委員のみならず、まちづくりトークを通して、入居者、商店主、地域住民など多くの方の意見や知恵を反映した提言をこの度まとめることができました。

この提言は、堀川団地の再生とまちづくりに関わる、事業者、入居者、地域住民、行政など関係者が、再生のビジョンや方法を協議、共有しながら進めることの重要性を明確にした点に、大きな特徴があります。それは、堀川団地という歴史的、社会的に意義のある建物を改修を含めて有効に活用しながら、関係者の合意形成を図り、それを基礎にまちが成熟していくような再生のあり方を追求していくことが適切であると提言したものだといえるでしょう。

この懇話会に様々な意見やアイデアを寄せていただいた関係者のみなさまに感謝申し上げますと同時に、これから動き出す堀川団地の再生とまちづくりに、より一層の御支援をいただくようお願いする次第です。

平成 21 年 9 月末日

堀川団地まちづくり懇話会座長 高田光雄

『堀川団地再生への提言』

堀川団地の役割

第二次世界大戦末期の昭和 20 年 5 月、京都大空襲に備えるため、幹線通り沿いの建物が強制疎開された。市内有数の商店繁華街であった「堀川京極」もこの時の強制疎開で消滅し、幅員 50m の防空帯となった。今の堀川通りはその時の「防空帯」を基にできたものである。

間もなく終戦を迎え、疎開にあった旧堀川京極の人々の復興の熱意に応じて、京都府及び京都府住宅協会が整備したのが「堀川団地」である。ガス、下水道が完備した鉄筋コンクリート造の店舗付き住宅は、全国初の取組として注目を浴び、全国からの見学者が絶えず、市街地復興住宅のモデルとなったと言われている。

上京区には、現在でも公営住宅団地はなく、京都府住宅供給公社の賃貸住宅である堀川団地は数少ない公的住宅として、建設後 60 年が経過してもなお、その役割と期待は大きい。

西陣をはじめ堀川団地周辺の地域は勤労者が多く住む地域であり、堀川団地は市民生活を支える商店街としても、地域住民に愛され、なくてはならないものである。



昭和 28 年復興大売り出しで賑わう堀川団地

I. 堀川団地再生の基本的視点

堀川団地の役割、現在の状態、入居者や地域住民の考え方を総合的に勘案すると、以下の3点を基本的な視点として、堀川団地再生に取り組むべきである。

- 少子高齢化社会に適応し、持続可能で環境に配慮したまちづくりを進めるという広い視野の下、その核となる公的住宅として堀川団地を再生する。
- ハード整備を優先するのではなく、再生のビジョンや方法を協議、共有しながら進める仕組みやプログラムを重視する。
- 京都府住宅供給公社が要のプレーヤーとしての役割を果たしながら、入居者、商業者、地域住民、行政、事業主体が協働して新しいまちづくりに取り組めるようにしていく。

II. まちづくりと団地再生の基本方向についての提案

1. 多様な世代が安心して生き生きと暮らす、まちと一体の魅力的な住環境・コミュニティを育んでいく

少子高齢化が進む中で、多世代が交流し活発なコミュニティを生み出すという目標は最も基本的なことだといえるが、堀川団地という建物内だけでそれを実現しようとするのではなく、まち全体として、また心通うソフト活動を含めて、一体的に実現していくことが大切である。

<具体的な提案>

- 高齢者がまち中で住み続けられるような福祉施設の併設
- 子育て世代はもとより多様な世代が居住できる住宅の整備
- 多様な世代が交流できるオープンカフェなどを持った商店街への再生

2. 将来、堀川通りが、ふれあいと交流の場となるようにする

建物疎開地を基に作られたという歴史的な重み、大勢の市民が長年の努力を積み重ねて復活させた堀川の清流、京都の中心地としての文化資源の存在などを考えると、堀川通りは市民の貴重な共有財産である。将来、市民がふれあい交流できる堀川通りに変えていくことが望まれ、堀川団地とその周辺のまちづくりにも明るい未来を与えてくれることとなる。

<具体的な提案>

- 清流が戻った「堀川」と連携して、人が散策し憩いたくなるような堀川通りに。
- 御池通、二条城や西陣をつないだ観光ネットワークと地域の産業と生活文化に根ざしたコミュニティツーリズムの導入

3. 環境と景観に調和した新しいまち並みを創造する

幅員50mという幹線道路に接し、容積率600%、高さ20mという都市計画制限のある堀川団地であるが、一方で多くの町家が残る市街地とも接しているため、環境、景観上の配慮が不可欠である。

<具体的な提案>

- 必要なボリュームを考慮しつつ、新しい町並みを育てる景観デザイン
- 建物の分節化などで、風が通り抜け、周囲の緑がつながるような環境

4. 賃貸店舗であることの強みを活かし、新しい商店を育てるような商店街をめざす

通りに面した1階を商店以外に利用させない、出店のハードルを低くし新しく商売にチャレンジしようとする人たちを応援できるなど、公社の賃貸店舗であることのメリットを活かすことで、商店街の活力を持続発展させていく。

<具体的な提案>

- チャレンジショップのような出店実験が常時できる商店街

- 賃貸の良さを活かしてより創造的な店舗デザインを育む商店街

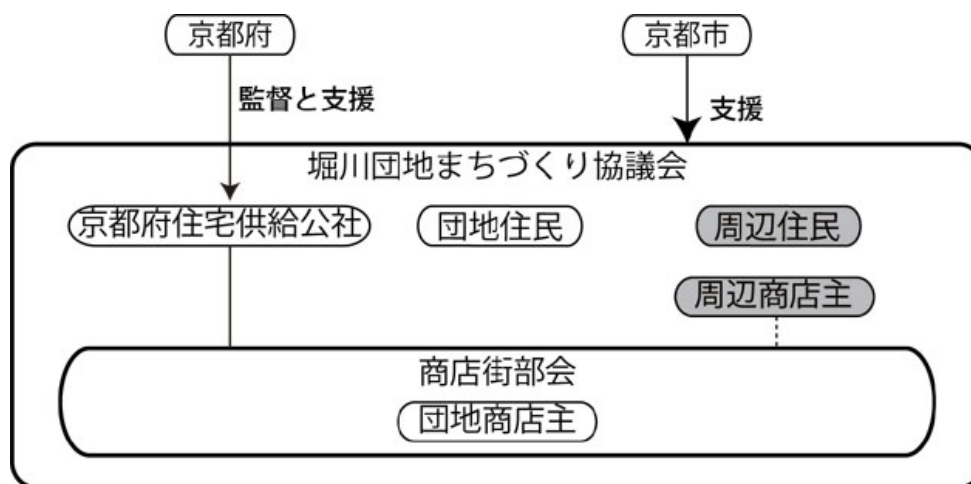
III. 事業の進め方、仕組み、プログラムについての提案

5. 入居者、商業者、地域住民、事業主体が参加するまちづくり協議会の場を設け、行政の支援の下、協働による再生事業の具体化を図る

まちづくりの中で堀川団地の再生を進めていくためには、まちづくりに関わる多様な主人公(プレイヤー)が協議し、情報とビジョンと計画を共有し、協働で事業を進めていくための基盤が必要であり、そのための仕組みを用意することがなによりも重要である。

<具体的な提案>

- 懇話会の議論をまちづくり協議会で継続し、計画の具体化を図る。
- 京都府住宅供給公社がコーディネート役としてスムーズな協議会の運営に努める。



6. 府市協調で、まちづくりと団地再生を支援する

高齢者世代や子育て世代が安心して住み、活気あるコミュニティが生まれるまちづくりを実現するためには、福祉や交流機能を複合した団地再生が不

可欠であるが、京都府住宅供給公社事業のみで実現するのは困難であり、多様な公的施策の導入が必要である。京都府はもちろんのこと、京都市の協力も仰ぎつつ、可能な支援策を検討していくべきである。

<具体的な提案>

- 高齢者福祉・子育て支援施設を併設した新しい公社賃貸住宅整備への支援
- 商業者がチャレンジできる新しい地域密着型商店街整備への支援
- 住宅供給公社に対して、上記を実現する支援施策を導入する。

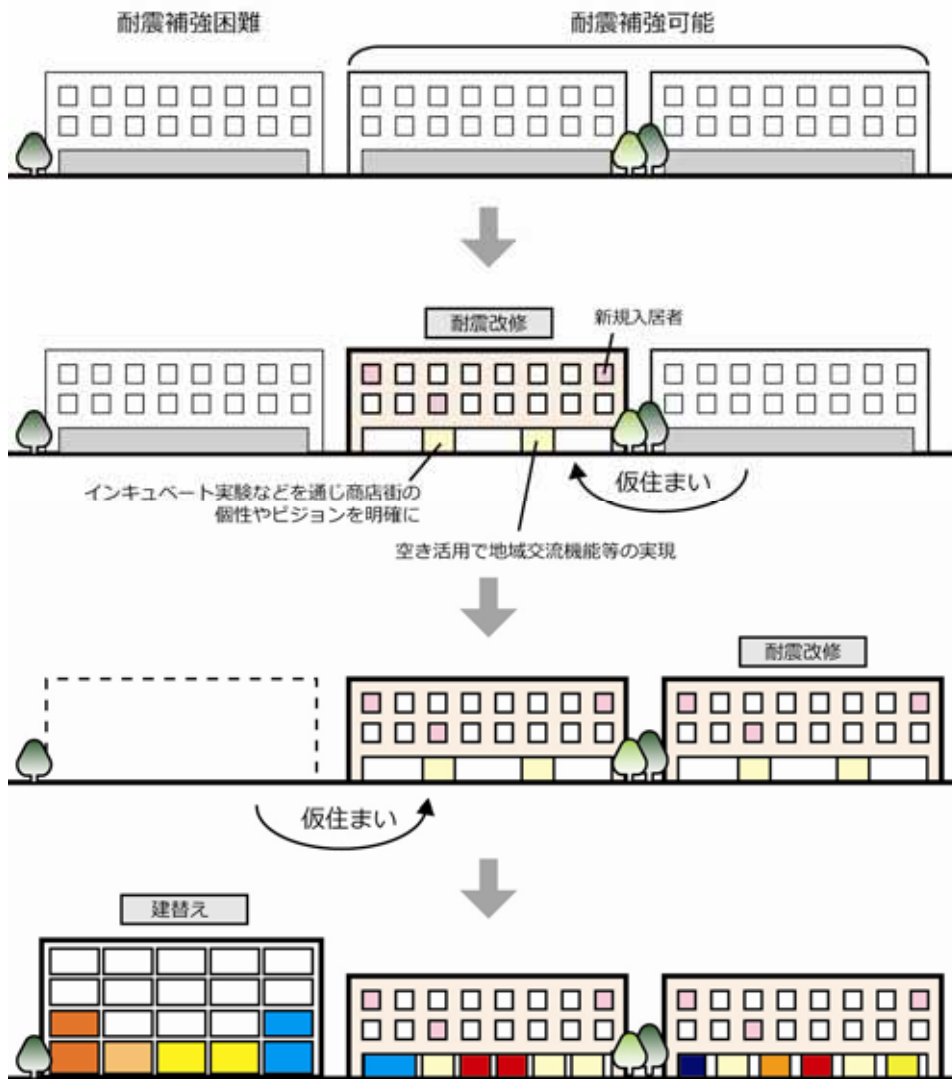
7. 堀川団地の再生を目標とした合意形成プログラムの実行

堀川団地そのものの再生については、現在入居している居住者、商店主の方々の生活設計や営業計画と適合してスムーズに再生が進むような計画が重要であるが、段階を踏んだ合意形成プログラムとして、それらの計画をあらかじめ策定し、着実に前進させていくことが求められる。

<具体的な提案>

- 目標年次を明確にした計画で関係者の合意と協働を誘発する。
- 合意形成期間に、団地居住者と商業者の安全安心を守るために必要な耐震補強などの対策、団地のコミュニティ機能を維持するために必要な対策の実施を検討する。

再生プログラムのイメージ



参考1 堀川団地まちづくり懇話会の概要

1. 名称 京都府住宅供給公社堀川団地まちづくり懇話会

2. 設置者 京都府

3. 設置の趣旨

戦後、地域社会に貢献してきた堀川団地ですが、老朽化を迎え安全上早急に対策を打つ必要に迫られています。府民の貴重な財産である堀川団地の再生は、商店街の今後のあり方も議論しながら、地域の居住ニーズやまちづくりに調和する方向で行われる必要があります。

この難しい課題に応える確かな事業計画を生み出していくためには、有識者のアドバイスやコーディネートのもと、広く地域の人たちの意見を踏まえながら検討していくことが不可欠であり、そのために堀川団地まちづくり懇話会が設置されました。

4. 委員

(50音順)

氏名	役職名
おくはら つねおき 奥原 恒興	京都商工会議所専務理事
たかだ みつお 高田 光雄	京都大学大学院工学研究科教授
ひろもと ゆかり 弘本 由香里	大阪ガス株式会社 エネルギー・文化研究所(客員研究員)
まえの よしこ 前野 芳子	公認会計士
やまもと こうじ 山本 耕治	京都市都市計画局都市企画部長
やまもと まさゆき 山本 雅之	株式会社京都銀行法人部次長

5. 懇話会の進め方

平成21年度上半期に3回の懇話会を開催し、そのまとめを提言として京都府知事に報告し、堀川団地再生の基本方向を確立することをめざしました。

広く地域の人たち等の意見を聴くため、懇話会主催で「まちづくりトーク」

を開催することとしました。

検討の経過

		検討内容
4月30日 ルビノ堀川	第1回懇話会	経過と現状の把握 懇話会やまちづくりトークの進め方
6月27日 京都府公館	まちづくり トーク	多様な地域住民・団体による意見交換
7月29日 ルビノ堀川	第2回懇話会	堀川団地まちづくりトークについて 堀川団地の再生について
9月18日 ルビノ堀川	第3回懇話会	懇話会提言（骨子）のまとめ

参考2 堀川団地の概要

団地名	建設年	敷地面積 (㎡)	延床面積 (㎡)	戸数	
				店舗併用	専用住宅
上長者町	S28年度	713	1,400	12戸	府職員住宅として利用
出水団地3	S25年度	853	1,521	9戸	18戸
出水団地2	S25年度	827	1,522	10戸	18戸
出水団地1	S25年度	860	1,522	9戸	18戸
下立売	S27年度	1,056	2,100	12戸	24戸
榎木町	S28年度	879	1,697	10戸	20戸
計		5,188	9,762	62戸	98戸



参考3 堀川団地まちづくり懇話会議論の概要

1. 第1回まちづくり懇話会(平成21年4月30日開催)

(1) 議事

懇話会の趣旨、目的 堀川団地の歴史と現状について
現地視察 堀川団地再生のための懇話会の進め方について

(2) 意見要旨

1. 現地視察の感想と検討すべき課題

- 入居者への配慮、地域に密着した商店街機能の維持・向上、隠れた観光資源の活用、高齢者や子育て支援など地域ニーズに対応、細長い立地を工夫した上での景観への配慮が大切である。
- 質の高い都市居住文化が残っており、周辺地域の住文化との連続性に配慮したまちづくりが必要。再生する場合京都ならではの空間の用いようが大事。
- 「単なる団地建替」ではない「新しい街並みを創出する」という視点が必要。歩いて楽しい堀川通りの環境形成が必要。屋上庭園等の居住者にも地域コミュニティにとっても憩いの場、賑わいの場となる空間の整備が必要
- 継続希望の営業者、入居者への配慮(建物のバリアフリー化、生活再建策など)が必要。新たな顧客を獲得するために新たな付加価値を創出する発想が必要

2. 検討すべき課題のまとめ(高田座長)

まちの将来像について、地域の様々な関係者の意見を聞いて検討すべき
歴史的、文化的な視点から、まちづくりを考えていくことが重要
商店街の将来像について、特色ある商店街としてより具体的な議論が必要
幹線道路沿いの規制や西側の町屋などを考慮した、景観に関する様々な視点での議論が必要
建物の材料、緑化など環境への配慮についても検討すべき
様々な方の期待に応えながら、事業を成立させるための智恵を絞った議論が必要

3. 今後の進め方と課題に対する考え方

- 商店街の機能向上という観点については専門家の意見も聞いて検討すべき
- 営業者に対する補償等の問題は重要だが、現状維持を前提とするのではなく、新たな付加価値を創出するという発想が必要

2. 堀川団地まちづくりトーク(平成21年6月27日開催)

(1) 議事

商業・商店街をテーマとして 街づくり・景観をテーマとして
居住・福祉・医療をテーマとして

(2) 意見要旨

1. 商業、商店街をテーマとして

- ・ 組織として商店街を存続させるべきという考えを確認した
- ・ 建替後に再営業できるという担保がないと、次の事は考えられない
- ・ 導入機能としては、食品スーパーや公益施設が望ましい
- ・ 駐車場は、現在契約している台数で足りている
- ・ 家賃の安さが若い店主にとって、出店する動機の一つになっている
- ・ 西陣は“訪れる町”ではなく、“住んで、働く町”だったからこそ、商店街は地域住民にとって必要
- ・ 店舗付住宅部分に居住する為には、別途倉庫が無いと商売ができない

2. 街づくり・景観をテーマとして

堀川らしいデザインに

- ・ 広く、交通量の多い堀川通が見えない壁になっているので、商店街と堀川通と堀川の関係を考えた建替えを行い、人の賑わいの再生につなげて欲しい
- ・ 店の狭小さ等による歩道への商品のはみ出し、歩道駐輪により歩道の通行が危険
- ・ 屋上菜園などの工夫で緑豊かな暮らしを実現して欲しい

観光の要素をプラスする

- ・ 美しくなった堀川のせせらぎと繋いだ観光ルートを構築してみても
- ・ 二条城から清明神社、西陣織会館までを観光ルートにし、堀川団地のまちづくりに活用してはどうか
- ・ 観光客に来てもらうためには、駐車場の低料金化や、歩きやすく、分かりやすいサインや地図が必要

京都の中心としての役割

- ・ 昭和26年の竣工当時のようなインパクトのあるものにして欲しい
- ・ 公の土地としての利活用ができないか(西陣文化の紹介、大学を巻き込んだ実験的活動)
- ・ 外国人留学生などが、日常生活の中で地域コミュニティと交流できるレジデンスの導入

3. 居住・福祉・医療をテーマとして

公的住宅供給の視点

- ・ 上京区内には公的住宅が堀川団地しかなく、再生時にも公的住宅供給の視点が大切
- ・ 現入居者は住み続けたいと思っている
- ・ 高齢者が多いため、エレベーターの設置など、バリアフリーの住環境整備は必須
- ・ 風呂を各戸に設置するか団地内に銭湯を設置して欲しい
- ・ 高齢者向け住宅ばかりに偏るのではなく、子育て世帯の居住促進に資する住宅づくりも行うべき

必要な福祉施設・公益施設

- ・ 多様な世代が入居でき、買い物客や地域の人とも気軽に集まれるようにしては
- ・ 共働きが増えてきているため、学童保育施設や子育て支援施設を導入しては
- ・ 小規模多機能等の福祉施設や地域の人が交流する公益施設を導入をしては

安全で安心して暮らせるように

- ・ 福祉協議会で高齢者の把握は出来ており、お互いに助け合う関係がある程度つくられている
- ・ 現在の団地は防災上非常に危険であるため、建替えの際には防犯や災害時の安全性も考慮して設計して欲しい

堀川団地まちづくりトーク発言者

発言テーマ	所属・役職	氏名
商業・商店街	堀川商店街協同組合理事長	貴田 稔
	堀川商店街協同組合専務理事	大西信三
	堀川商店街一丁目会会長	大原謙三
	堀川商店街五丁目会会長代理	中村克彦
街づくり・景観	中立住民福祉協議会会長	上林研二
	西陣織会館館長	大槻ゆづる
	特定非営利活動法人京都西陣町屋スタジオ理事	中西洋一
	堀川と堀川通を美しくする会	駒井義弘
	アーティスト	吉原和恵
	財団法人大学コンソーシアム京都副事務局長	井上真琴
居住・福祉・医療	長尾町内会会長	大西史泰
	四丁目会会長代理	上前喜代志
	待賢住民福祉連合協議会会長	左近允則
	聚楽住民福祉協議会会長	櫻井五郎
	上京区社会福祉協議会会長	高瀬博章
	西陣医師会会長	鈴木由一

3. 第2回まちづくり懇話会(平成21年7月29日開催)

(1) 議事

まちづくりトークの報告と意見交換 関連データの説明(アンケート結果(入居者アンケート/堀川商店街お買い物アンケート/堀川商店街営業者アンケート)、堀川団地の耐震性能と建替、再生の事業フレーム)
提言に向けた論点について

(2) 意見要旨

1. 商業、商店街に関して

- 堀川団地の住宅が、セーフティネットの機能を果たしている事を十分認識した上で、今後の公社の役割、公的住宅の必要性、社会的意義を明確にすべき
- 時間的プログラムを出来るだけ早く明示する必要がある
- 新しい公社の役割を切り拓いていくという意味で、堀川団地再生事業を位置づけていく必要がある
- まちの持続性や環境、人の暮らしの持続性に貢献するというビジョンを持った上での建替え事業にすべき
- 土地売却型にすると地域の想いを形にするのが難しいため、併用住宅賃貸型事業スキームを前提に検討すべき
- 耐震補強の関係と時間の問題があるが、全てを建替えるより一部を残すという方法も考えられる

2. 居住・福祉・医療に関して

- 地域全体として様々な社会的ニーズ(福祉、商業、観光等)が高まっている
- 現居住者に対する家賃補助等の保障と共に、まちに活力を与える新しい層の居住を推進するための手立てが必要
- 住まいながら新たなビジネスを立ち上げる事ができるようなインキュベーション施設の導入も可能ではないか
- 長期的な視点から、新しい入居者が循環するよう、多世代が入居できるフレキシブルな住宅を整備すべき
- 地域の人が集まって憩えるスペース、まちの縁側のスペースが必要

3. まちづくりに関して

- 持続的な地域コミュニティであるために、若年層を次世代の担い手として受け入れる場が必要である。
- 様々な人の想いを反映する仕掛け、仕組みづくりとして京都市と連携したまちづくりを協議する場・組織が今後必要となる。
- 地域のネットワークの結節点、シンボルとして、福祉的にも、観光的にも、環境的にも貢献できるような施設づくりが望ましい。
- 団地内だけでなく地域にも広がりを持ったコミュニティが形成できる仕組みづくりが必要である。
- 団地再生のストーリーに、コミュニティ・ツーリズムの発想を組み込んでいければ良いのでは。
- 現入居者、営業者については、新たな入居者に比してある程度の優遇措置が必要であるが、「もう一度自分達で街づくりをする」という気概でまちづくりに参加できる受け皿が必要である。

4. 第3回まちづくり懇話会(平成21年9月18日開催)

(1) 議事

懇話会における議論の経過について 住宅再生手法の説明について
提言骨子について

1. 提言骨子に向けた主な意見

- 堀川団地は、これまでの長い歴史の中で担ってきた役割からも、公的住宅としての位置づけをし、公社が中心となって整備するべき住宅である。
- 地域密着型の商店街はまちづくりの視点からも地域の人にとって不可欠である。
- 賃貸店舗という利点を生かしたチャレンジ性に富んだ商店の可能性もある。
- 団地の再生には、ハード面でどのように建て替えるのかの結論を導くことをあせらず、じっくりと地域の人も参画した形で再生計画を決定する「協議会」を組織するといった仕組みをつくるのが大切。
- 京都府や京都市も、まちづくりの観点では公社や地域をしっかりとサポートするべきである。
- 長期的なビジョンをしっかりと検討した上で、それに向かって時間的なプログラムを示して整備するべき。
- 高齢者だけでなく、いろんな世代の集うまちを目指す事が求められている。

2. その他の意見

- 京都は、ただでさえ公的住宅が少ない。それを少なくすることは望ましくないという視点が重要である。
- 商店街存続の仕組みをまちづくりの将来像の中で考えていかねばならない。
- 賃貸の店舗であるという強みを生かし、若い人にチャレンジを求めたい。チャレンジショップなど、小売り分野でのインキュベーションにも取り組める。商工会議所としても、アドバイザー派遣などは可能。
- 若い人にも昭和の建物へのトキメキがある。ストックの活用を考えても良い。建替えと改修を組み合わせつつ、柔軟に新たな機能を盛り込むことで、地域の人たちの思いも活かしやすくなるのではないか。
- 単なる建替えでは、魂が入らない。どのようなことをすればこのまちを50年活かし続けられるのかと考えることが大切である。お年寄りや子育て世代、学生、留学生が京都の文化や知恵に触れあえるような場となると良いのでは。
- 通所型福祉施設を地域や商店街連携の中で実現させることも考えるべきである。
- 自然発生的にはまちづくりは出来ない。まちづくりにおいて、主役は住民であるが、府や市のサポート、誘導が必要である。協議会での議論は住民と商業者は、最初は分けて協議するような工夫や、小さいところから徐々に広げる工夫もが必要である。
- まちづくりは異なる価値観の協働であり、「将来」を見据えた議論でないと対立する。ハードの議論を先行させずに、プロセスの議論をすることが大事である。

参考4 関連アンケート 結果概要

1. 入居者アンケート結果の概要

対象者：堀川団地に入居中の世帯主

実施日時：配布：2009年6月15日

回収：2009年6月24日～7月15日

配布・回答率：配布55通、回答54通、回答率：98%

結果概要

入居者について

- ・ 世帯主の高い高齢化率（60歳以上が7割超、30代は無し）
- ・ 1人若しくは2人世帯が非常に多く、世帯主が無職である世帯が約半数

現在の団地について

- ・ 立地条件や住環境について満足度が高く、特に交通の便が良い事については大多数が満足に感じている
- ・ 住戸内の設備等に関しては不満度が高く、特に風呂が無いことについては、不満度が非常に高い

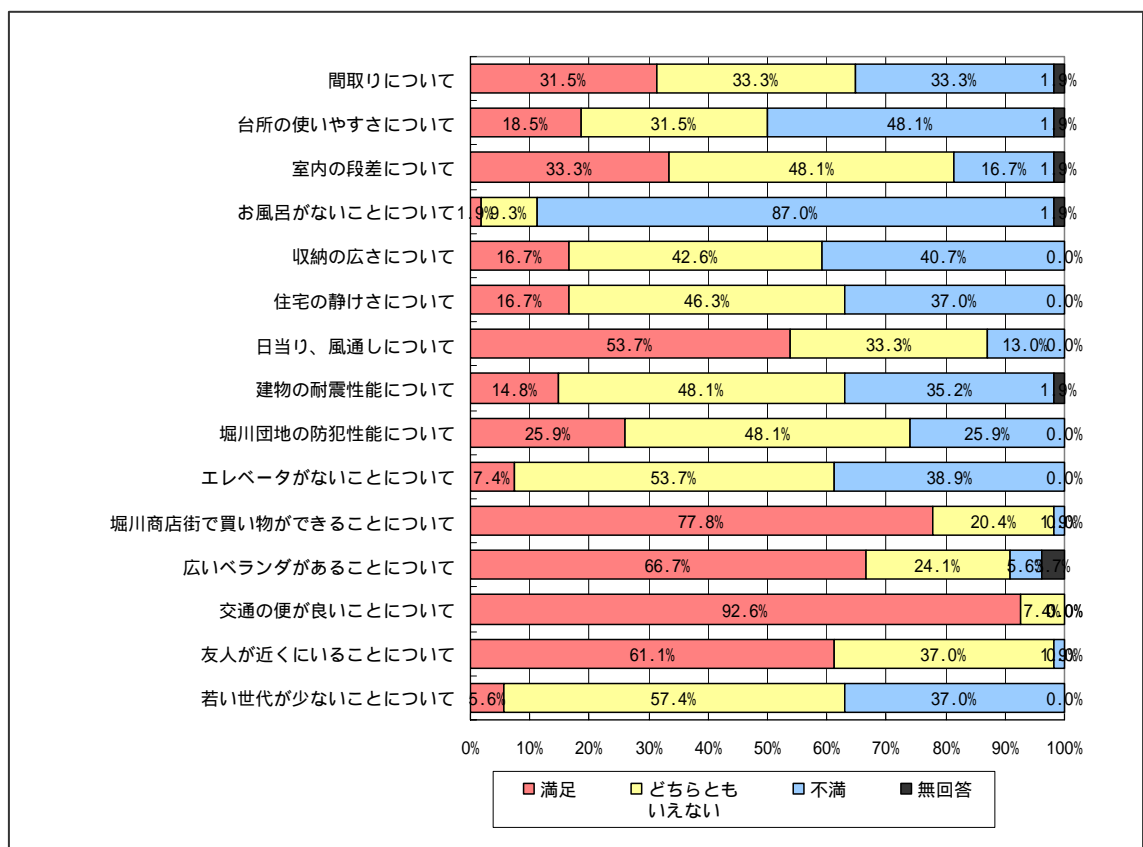


図 現在の団地に対する満足度

今後の暮らしについて

- ・ 介護サービスを受けていない世帯が7割以上
- ・ 今後介護が必要になった場合、“堀川団地で暮らしながら何らか方法での介護を受けたい”という意向を持つ世帯は7割以上
- ・ 団地に住み続けたいという思いを持つ人が非常に多い

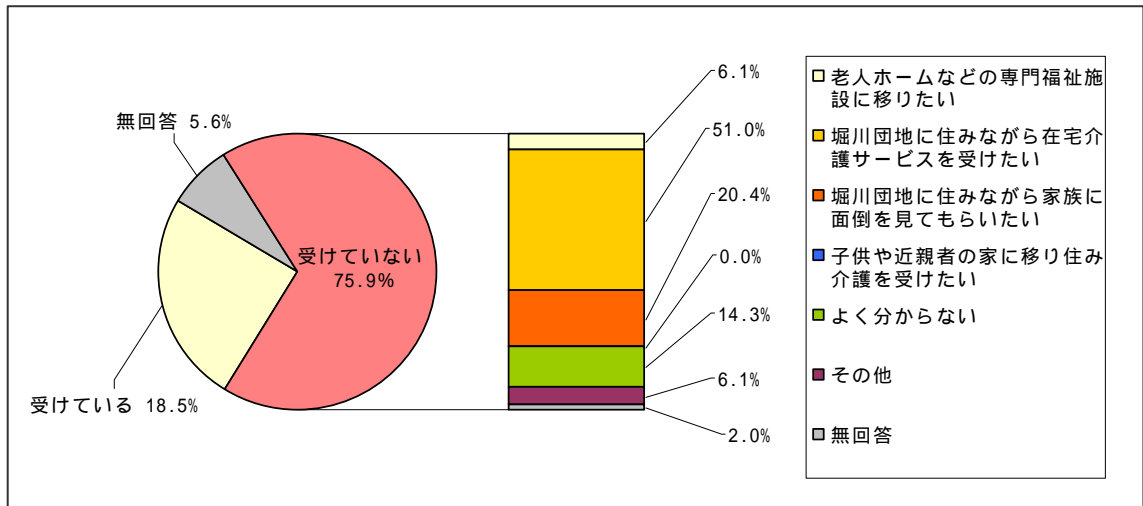


図9 .介護サービスについて

2. 堀川商店街お買い物アンケート結果の概要

対象者：聚楽学区、待賢学区、滋野学区、中立学区の日常的に買物をされている方

実施日時：配布：2009年6月24日

回収：2009年7月15日～8月20日

配布・回答率：配布483通 回答417通 回答率86.3%

結果概要

普段よく買物をする人について

- ・ 主婦が多く、若干高齢化が進んでいる

現在の商店街について

- ・ 認知度は非常に高いが、利用頻度はそれほど高くない
- ・ 休憩所やトイレ、駐輪場などの付随機能や活気、情報提供に対する不満がある

今後の商店街について

- ・ 市役所等のサービスコーナーや飲食店、トイレ、休憩所といった施設の導入が望まれている

学区別の傾向

- ・ 現在の堀川商店街に対する満足度に関しては、4つの学区別、また堀川通りを境に東側と西側で大きな違いはない

年代別の傾向

- ・ 年代が上がるほど堀川商店街の利用頻度は高い

堀川商店街に欲しい施設

	欲しい施設（1番）		欲しい施設（上位4つ）	
	件数	割合	件数	割合
市役所等のサービスコーナー	78	18.7%	148	14.3%
銀行のATMコーナー	45	10.8%	103	10.0%
医院介護施設	29	7.0%	82	7.9%
託児所	6	1.4%	33	3.2%
トイレ・休憩所	58	13.9%	151	14.6%
コンビニ・スーパー	31	7.4%	93	9.0%
飲食店	66	15.8%	181	17.5%
カジュアルなどの衣料品店	19	4.6%	107	10.3%
その他	41	9.8%	93	9.0%
無回答・不明	44	10.6%	44	4.3%
合計	417	100.0%	1035	100.0%

普段よくお買物をする場所

	食料品		日用品		衣料品		サービス商品 （飲食・理美容）		その他 （家具・家電など）	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
堀川商店街	54	12.9%	69	16.5%	17	4.1%	26	6.2%	0	0.0%
コンビニ・スーパー	270	64.7%	123	29.5%	17	4.1%	8	1.9%	7	1.7%
郊外の大型店	18	4.3%	108	25.9%	86	20.6%	34	8.2%	215	51.6%
四条河原町周辺	10	2.4%	17	4.1%	194	46.5%	135	32.4%	28	6.7%
京都駅周辺	0	0.0%	0	0.0%	11	2.6%	18	4.3%	16	3.8%
市内の他の商店街	25	6.0%	33	7.9%	26	6.2%	72	17.3%	40	9.6%
通信販売	6	1.4%	4	1.0%	20	4.8%	2	0.5%	22	5.3%
その他	24	5.8%	47	11.3%	27	6.5%	77	18.5%	58	13.9%
無回答・不明	10	2.4%	16	3.8%	19	4.6%	45	10.8%	31	7.4%
合計	417	100.0%	417	100.0%	417	100.0%	417	100.0%	417	100.0%

3. 堀川商店街営業者アンケート結果の概要

対象者：堀川商店街協同組合、堀川商店街一丁目会、堀川商店街五丁目会の店

実施日時：配布：2009年7月3日～7月6日

回収：2009年7月8日～7月22日

配布・回答率：配布51通 回答50通 回答率98%

結果概要

現状について

- ・ 経営者の半数以上が60歳以上
- ・ 顧客も高齢化が進んでおり、交通手段としては徒歩や自転車が多く、堀川商店街周辺から買物に来ている

今後の商店街について

現状維持を望む声が大きく、新たな資金投入を避けたいというのが最も大きな理由となっている

商店街の活性化について

- ・ 近隣住民に愛される商店街を維持しながらも、新たな顧客や観光客にも対応した商店街を望んでいる
- ・ 駐車場や駐輪場の確保と西陣らしい建物のデザインが必要と考えている
- ・ 商店街の将来ビジョンについて商店主は明確なイメージは見出せておらず、公社の考えを早く知りたいという希望が非常に多い

将来の意向

	1丁目会・5丁目会		堀川商店街協同組合	
	該当数	構成比	該当数	構成比
団地建替えにあわせて、店舗も新しくしたい	6	42.9%	0	0.0%
● 現在のまま、可能な限り営業していきたい	7	50.0%	36	100.0%
適切な時期に廃業したい	0	0.0%	0	0.0%
他の場所で営業を続けたい(移転)	0	0.0%	0	0.0%
無回答	1	7.1%	0	0.0%
合計	14	100.0%	36	100.0%

現状維持を希望する理由

	1丁目会・5丁目会		堀川商店街協同組合	
	該当数	構成比	該当数	構成比
現状に満足	2	28.6%	2	5.6%
→ 新たな資金投入は避けたい	5	71.4%	24	66.7%
特に理由は無い	0	0.0%	4	11.1%
その他	0	0.0%	1	2.8%
無回答	0	0.0%	5	13.9%
合計	7	100.0%	36	100.0%

